

5. 移民政策の論点
 6. 配偶関係を考慮した高齢者の居住形態に関する研究
 7. 人口密度の資源・環境に及ぼす影響
- <座長> 兼清弘之 (明治大学)
 河野道和 (姫路市役所)
 白井 泉 (慶應義塾大学)
 増田幹人 (駒澤大学)
 (佐藤龍三郎記)

日本中東学会第21回年次大会

日本中東学会 (会長: 三浦 徹・お茶の水女子大学教授) の第21回年次大会 (実行委員長: 松原正毅・国立民族学博物館教授) が2005年5月8日 (土) ~ 9日 (日) の2日間にわたって国立民族学博物館で開かれた。初日の午後には公開講演会のパネル1「メディアの見た中東の20年」、パネル2「中東研究の大技・小技」、総会が行われ、2日目には午前・午後とも5分科会が設けられて会員による報告がなされた。今回の公開講演会はいずれも興味深いものであったが、人口には直接的な関係がなかった。他方、人口に関係する会員報告としては以下の2つがあった。

小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所) 「在日外国人『ムスリム』の人口学的特性の変動」
 井家晴子 (東京大学大学院) 「移民と『ジャマイカ』: モロッコ王国における NGO の発展と背景」

なお、来年の第22回年次大会は5月13~14日に東京都府中市の東京外国語大学で第6回 AFMA (アジア中東学会連合) 大会と同時に開催される予定である。 (小島 宏記)

比較家族史学会第47回研究大会

比較家族史学会 (会長: 岩本由輝・東北学院大学教授) の第47回大会 (運営委員長: 國方敬司・山形大学教授, 運営委員: 岩本由輝, 國方敬司, 長谷部弘, 永野由紀子) が2005年5月28日 (土) ~ 29日 (日) の2日間にわたって山形大学で開かれた。今回は「家の存続戦略と婚姻」をテーマとする大会であったため、ほとんどが多かれ少なかれ歴史人口学か家族人口学に関係する報告で、その半分近くが日本人口学会会員によるものであったので、以下にテーマ報告全体と関連する自由報告を掲げることにする。

5月28日 (土)

<自由報告>

工藤 豪 (日本大学大学院) 「婚姻研究の動向—民俗学・人類学を中心として—」

<テーマ報告>

國方敬司 (山形大学) 「問題提起・家の存続戦略と婚姻」

岩本由輝 (東北学院大学) 「家存続戦略としての婿養子—大名家臣団を事例として—」

木下太志 (筑波大学) 「江戸時代の東北—農村の世帯の変遷」

長谷部弘 (東北大学) 「近世日本農村社会における蚕種経営と相続」

米村千代 (千葉大学) 「財閥の婚姻戦略と『家』の存続—明治大正期の事例分析—」

永野由紀子 (山形大学) 「現代の東北農村における『家』の存続戦略—山形県庄内地方の事例—」